酪農（３）遺跡

－縄文時代後期の集落と環状列石－

所 在 地：むつ市大字田名部字酪農第３
調査機関：青森県埋蔵文化財調査センター
調査期間：令和２年５月12日～10月30日
調査原因：国道279号むつ南バイパス道路改築事業

遺跡の概要

酪農（３）遺跡は、田名部川下流部の左岸、標高25ｍ前後の台地縁辺部に立地しています。田名部川に向かう谷を挟んで南側には縄文時代後期の環状に巡る掘立柱建物跡群が見つかった内田（１）遺跡があります。

本遺跡では4,700㎡を対象に調査を行い、縄文時代後期初頭から前葉（約4,000年前）を主体とする集落と環状列石が見つかりました。

遺構の概要

環状列石１カ所、竪穴建物跡４棟、土坑140基、土器埋設遺構11基、焼土37基、小穴168基、捨て場１カ所、落とし穴２基、その他の遺構３基が見つかりました。

環状列石は完全には石が巡らず東側と南側は途切れる部分も多いのですが、全体の配置は環状を意識してつくられたと考えられます。約50個の石から構成されており、想定される直径は約20ｍです。石の数は少なく、造営・維持された期間が短かった可能性も考えられます。石は拳大から長さ１ｍ、幅40cm、厚さ15cmほどのものまであります。角がとれていない石が多く、川の上流部から運んできた可能性が考えられます。標高の最も高い地点には大きな石を組み合わせた組石遺構があり、下部には土器が埋設されたようです。西側には直線状に延びる石の列（張り出し部）があります。環状列石の下部に墓穴が伴うかどうかや他の遺構との時間的な前後関係など、詳細な調査は次年度に行う予定です。

土坑にはフラスコ状土坑と柱穴と考えられるものがあります。柱穴は幾つかが組合わさって掘立柱建物跡を構成すると考えられますが、具体的には今後の検討課題です。小穴や焼土は竪穴建物跡の一部であった可能性があります。

土器埋設遺構のうち１基は再葬土器棺墓であることがわかりました。南半部の斜面は捨て場となっており、多量の遺物が出土しました。

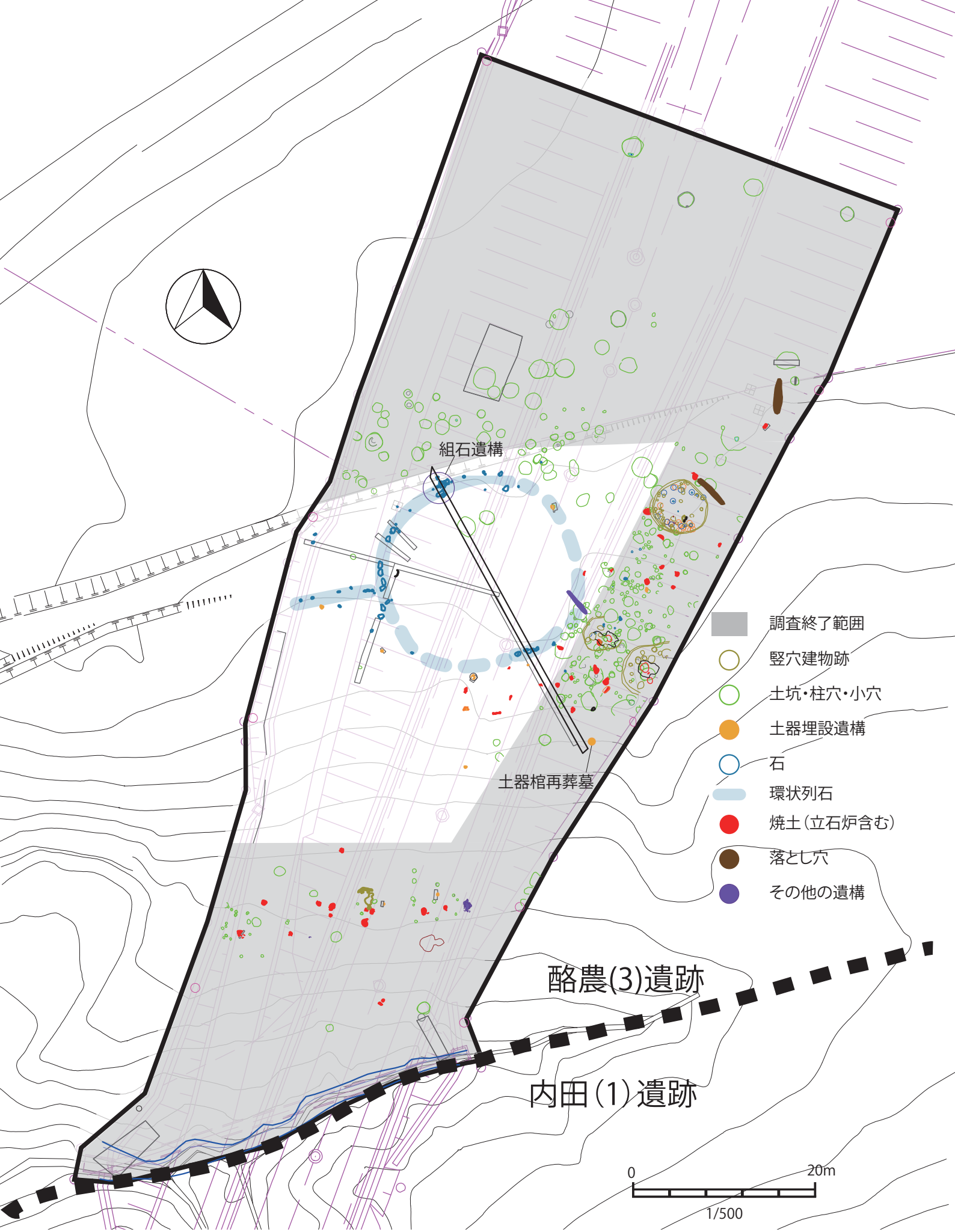
遺構の時期は縄文時代後期初頭から前葉のものが主体ですが、中期後葉まで遡るものもあるようです。

遺物の概要

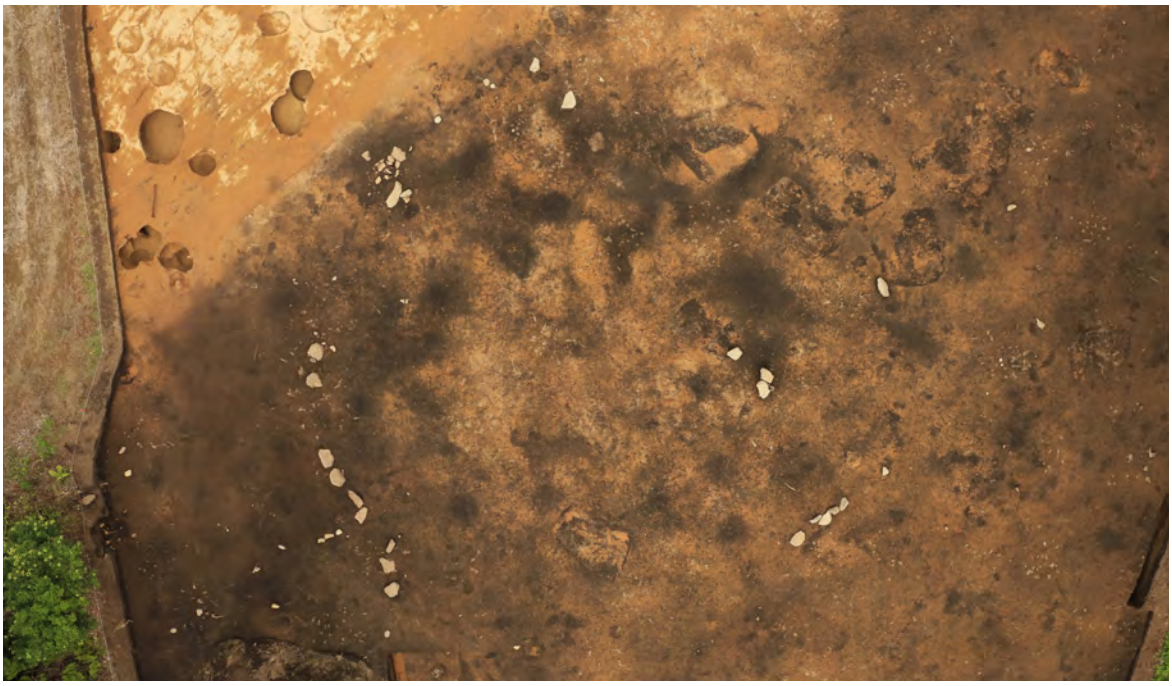
遺物は縄文時代後期初頭から前葉を主体とする土器・石器・土偶・土製品・石製品などが段ボールで276箱分出土しました。通常の遺跡よりも土偶・土製品・石製品が多く出土しています。

遺跡の特徴

環状列石は発見されることがまれな遺構で、青森県で発見された環状列石は集落とどのような関係にあるのかわかる例は多くありません。本遺跡は他の遺構との時間的関係を検討でき、谷を挟んで対岸にある内田（１）遺跡との関係を含めて、環状列石の意味を考える上で貴重な事例です。　　（中村　哲也）


組石遺構
土器棺再葬墓
調査終了範囲
竪穴建物跡
土坑・柱穴・小穴
土器埋設遺構
石
環状列石
焼土（立石炉含む）
落とし穴
その他の遺構
酪農(3)遺跡
内田(1)遺跡
0
20m
1/500

酪農（３）遺跡遺構配置図



環状列石全景（写真上が北）

組石遺構検出状況（北から）

環状列石東側の土坑・小穴群

球状石製品出土状況

土偶出土状況

立石炉検出状況

フラスコ状土坑の遺物出土状況